



[JP] Soundvision 2025.1.1 リードミー

Soundvision は L-Acoustics の音響およびメカニカルに関する 3D モデリングソフトウェアです。

Soundvision 2025.1.1 は、2025 年 6 月より <https://www.l-acoustics.com/> からダウンロードできます。

コンピューター要件

最小動作環境：

- オペレーティングシステム
- Windows 10 (64-bit)
- macOS High Sierra (OS X 10.13) から macOS Monterey (12) まで。
- メモリー：1 GB 以上
- プロセッサ速度：1.2 GHz 以上
- ハードディスク空きスペース 100 MB 以上
- ビデオカード：
- Intel HD、Iris graphics。 (Intel GMA と Intel Extreme Graphics はサポート対象外です。)



Intel HD Graphics 5500 グラフィックカード (プロセッサ: i3-5005U、i3-5015U、i3-5010U、i3-5020U、i5-5200U、i5-5300U、i7-5500U、i7-5600U) 搭載の PC は、ドライバーバージョンを 10.18.15.4279 (インテルパッケージ・バージョン 15.40.7.4279 以降) 以上にアップデートしてください。これに満たないバージョンのドライバーはマッピング結果を正常に表示できません。

- GeForce カードシリーズ 8 以上。



次のモデルは互換性がありません： GeForce 256、GeForce 2 シリーズ、3 シリーズ、GeForce 4 シリーズ、GeForce FX シリーズ、GeForce 6 シリーズ、GeForce 7 シリーズ。

- ATI Radeon HD 2000 シリーズ以上。
- サードパーティソフトウェア： Adobe® Reader®

Windows 10 および Windows 11 は Microsoft 社の登録商標です。

Mac および mac OS は米国および他の国で登録されている Apple 社の商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Soundvision のインストール

手順

- www.l-acoustics.com を開く
- Products > Software > Soundvision** を選択
- Get Soundvision** をクリック
- フォームを記入し **Download Soundvision** をクリック
- Windows 用：ダウンロードした exe ファイルをダブルクリック
- Mac OS 用：ダウンロードした dmg ファイルをダブルクリックし pkg ファイルをダブルクリック
- インストールウィザードの手順にしたがう

Soundvision 2025.1.1 – 2025 年 6 月

新たな機能と改善

このリリースは 2025 年 5 月のリリースに代わるものであり、重要な問題の修正および改善を含みます。

Soundvision 2025.1.1 で導入した新機能：

- ブリッジモード構成と、個々の SMPS のパワーバジェットを表示するデュアルパワーゲージを備えた、16 チャンネルアンプリファイドコントローラー LA1.16i に対応しました。
- 測定の基準として最も遠いソースを用いて、プローブツールチップに幾何学的な遅延情報が表示されるようになりました。アライメントワークフローの推奨については、**プリセットガイド**の「**Pre-alignment delay values**」セクションを参照してください。

Soundvision 2025.1 で導入した新機能：

- マッピングモードではすべてのソースタイプ（フルレンジスピーカーとサブウーハー）の再生成分が表示されます。これにより「サブウーハーモード」を廃止しました。
- 現在カタログに掲載しているすべてのスピーカーと一部の旧型スピーカーの音響データに測定した位相情報を追加しました。位相情報が含まれない従来のスピーカーは低域における他の音源との相互作用が不正確になる可能性があります。識別方法はヘルプを参照してください。
- サブウーハーまたは低域エレメントのソースに対して、オーディエンスでのブロックによるシャドウイングが発生しなくなりました。これは、グランドレベルにスタックしたサブウーハーの再生成分が、サブウーハーレイより高い位置に存在するオーディエンスエリアのマッピングに表示されるようになったことを意味します。
- サブウーハーまたは低域エレメントのソースに対して、オーディエンス以外のオブジェクト（例：壁など）の音響透過性を有効にする新しいオプションを設けました。
- Loudspeaker data > Electronic settings > Alignment** に新たに設けたディレイおよび極性設定により、フルレンジラインソースとサブウーハーまたは低域エレメントを組み合わせたミックスソースの各エレメントをタイムアラインできるようになりました。
- Frequency response** ツールボックスに、プローブとスナップショットを使って周波数レスポンスを評価するための新しいプローブモードを追加しました。
- コピーまたはシンメトリーで作成したソースおよびサーフェス/プロファイルのデフォルト名を変更しました。

その他の変更

- リリース年に基づく新しいソフトウェアバージョン番号 [YYYY (年)].[n リリース番号].[n バグフィックス番号] の採用により、互換性の識別を簡単にしました。ファームウェアバージョンとツールバージョン（L-Acoustics デバイススキャナー、USB ターミナルなど）の番号は変わりありません。
- Soundvision 2025.1 および 2025.1.1 は、macOS 10.13 (High Sierra) および 10.14 (Mojave) と互換性のある最後のバージョンとなります。

プリセットライブラリーとエンクロージャーライブラリー 7.14

- LA1.16i、16 チャンネルアンプリファイドコントローラーに対応しました。
- [SYVA SUB_60]プリセットの L-Drive 設定を最適化して更新しました。

修正した問題

- プロジェクト名に特殊文字を含むファイルが開けない。
- 広いオーディエンスの SPL ターゲットを表示させた際にパフォーマンスが悪化する。
- 以前のバージョンで作った「空のスナップショットを含むファイル」が 2025.1 で開けない。
- L2 の軸外に設けたプローブが誤った周波数特性を示す。
- ハイブリッドアレイに対して Autofilter は不十分な結果を返すとともにパフォーマンスが低下する。
- X6i と X8i のメカニカル警告が他の同軸ソースの動作と一致していない。

既知の問題

Autosolver と LA Network Manager の互換性 :

- マッピングモード時に **Autosplay > Optimize** を実行すると、Soundvision が予期せず停止することがあります。カバレッジモードに切り替えてから **Optimize** をクリックしてマッピングモードに戻す回避策で対応してください。
- オートソルバーを備えたソースにアライメントディレイと極性を適用してもオートソルバーの結果は自動的にリセットされません。オートソルバーの結果は手動でリセットしてください。(BA 追記 : ディレイおよび極性を変更すると Frequency Response に表示される特性は変化しますが、それは「変更前の条件に対して作られたフィルターを使った算出結果に対してあとからディレイおよび極性変更を施したもの」です。ディレイや極性変更後にその状態に合わせてフィルターを作成したい場合は、手動で Refresh を実行しなければなりません。)
- Soundvision ファイルを LA Network Manager にインポートした場合、LA7.16(i)以外のアンプリファイドコントローラーでは極性が正しく設定されません。(BA 追記 : LA7.16(i)以外のアンプリファイドコントローラーの場合、Soundvision 上で施した極性反転は LA Network Manager 上で手動設定しなければなりません。)
- Autosolver は非常に深いバルコニーのようなプロファイルに対して正常に動作しない場合があります。Autosolver の結果を手動で調整してください。

その他 :

- 一部の WST ソースでは、高い周波数でのマッピング結果に微細な視覚的アーチファクト（人工的な化合物）が現れることがあります。これらのアーチファクトは Autosolver の結果には影響しないため、無視しても問題ありません。
- Kara II Down エlement に 110°とそれ以外の角度のパンフレックス設定が含まれる K2 ラインソースを作ると、**Zoning groups** に [KARADOWNK2 xx]プリセット名の代わりに[KARA II xx]プリセット名が表示されます。これは表示だけの問題であり、マッピング時と LA Network Manager へのインポート時には正しいプリセットが適用されます。
- マッピングモード時に 3D シーン上でソースを移動しようとすると Soundvision が応答しなくなることがあります。カバレッジモードに切り替えてソースを移動しマッピングモードに戻す回避策で対応してください。
- KS21-OUTRIG または K2-JACK+KS21-CHARIOT を用いてスタックしている KS21 は YZ シンメトリーを設定できません。
- LA2Xi および LA4X アンプリファイドコントローラーに **SYVA+LOW** ソースをアサインする場合、チャンネル 1-2 だけにしかアサインができません。チャンネル 3-4 はアサインできません。
- WIFOTILT および A-TILT を使用したスタックアレイの角度をレポートで正しく表示できません。
- 3D scene** において、透明度を設けたサーフェス越しの見え方は正しくありません。
- Apple M1 以上では、**SPL Target** ツールボックスの更新が遅くなります。
- Intel プロセッサを内蔵した Mac コンピューターでは、**3D シーン**のディレイモードでマッピングをオンにすると、グラフィックにバグが表示される場合があります。マッピングモードをオフにして再度オンにすると、この問題は解決します。

推奨事項

メカニカル警告

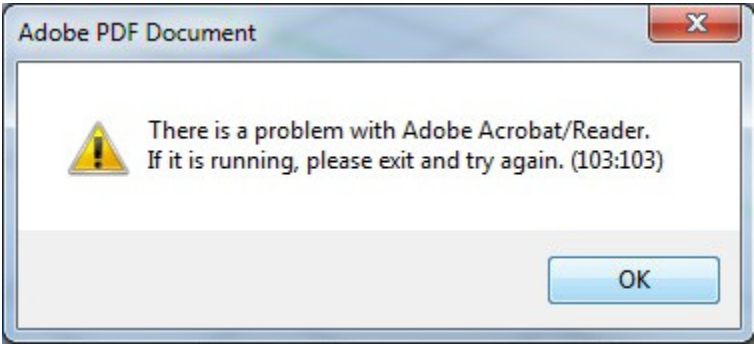
以下のスタック構成では、強く押されたり揺れたりした場合にアレイが転倒する可能性があるため、「tipping hazard : 転倒の危険」の安全警告が発せられます :

- 1 コの A10 Wide/Focus エンクロージャーをスタックしたアレイ
- HF right で 2 段スタックした ARCS Wide/Focus のアレイ
- サイトアングル 0°で Syva Base にスタックした Syva と Syva Low on Syva
- 水平にスタックした SB10i

アレイの近くへ立ち入れないような措置が取られている場合は警告を無視しても問題ありません。そうでない場合は、アレイを地面に固定することをお勧めします。

Adobe® Reader® トラブルシューティング

Soundvision でレポートを生成する際に Adobe Reader の問題を示すつぎのメッセージが表示される場合があります。(エラー 103:103)



考えられる原因	トラブルシューティング手順
Adobe Reader のデフォルト設定が、更新後に初期化されなかった。	1. Adobe Reader を起動する。(例：なんらかの PDF を開く。) 2. Soundvision からレポート作成を試みる。
Adobe Reader のバージョンが古い。	1. Adobe Reader を最新版に更新する。(get.adobe.com/reader から) 2. Adobe Reader を起動する。(例：なんらかの PDF を開く。) 3. Soundvision からレポート作成を試みる。
Adobe Reader のセキュリティ設定が Soundvision に干渉している。	1. Adobe Reader を起動する。(例：なんらかの PDF を開く。) 2. 編集メニューから環境設定を選ぶ。 3. 分類リストからセキュリティ（拡張）を選ぶ。 4. 起動時に保護モードを有効にするのチェックを外し、承認する。 5. OK をクリックし、環境設定ウィンドウを閉じる。 6. Adobe Reader を閉じる。 7. Adobe Reader を起動する。(例：なんらかの PDF を開く。) 8. Soundvision からレポート作成を試みる。